

平成 25・26 年度 土木学会複合構造委員会 第 3 回幹事会議事録

1. 日 時：平成 25 年 9 月 5 日（木）14:00～17:00
2. 場 所：土木学会 B 会議室
3. 出席者：奥井副委員長，池田幹事長，大久保幹事，大山幹事，葛西幹事，斉藤幹事，
滝本幹事，西崎幹事，広瀬幹事，古市幹事，溝江幹事，渡辺幹事
（欠席者：島委員長，下村幹事，松本幹事，久米村事務局）
4. 配布資料
資料 幹3-0 第3回複合構造委員会幹事会議事次第
資料 幹3-1 第2回複合構造委員会幹事会議事録（案）
資料 幹3-2 平成25年度全国大会研究討論会
資料 幹3-3 第10回複合・合成シンポジウム プログラム案
資料 幹3-4a 土木学会論文集特集号編集小委員会 今後の考えられる予定
資料 幹3-4b 論文集特集号 小委員会報告執筆台帳
資料 幹3-5 H210「防水・排水技術」およびH104「巨大地震」合同講習会報告
資料 幹3-6 H211「FRPと鋼の接合構造」に関する講習会開催計画
資料 幹3-7 合成床版の設計・施工マニュアルに関する受託研究小委員会の準備状況
資料 幹3-8 出版関係（出版図書の販売状況と平成26年度出版計画）
資料 幹3-9-1 小委員会一覧
資料 幹3-9-3 H180FRP水門設計ガイドライン作成小委員会
資料 幹3-9-5 H208FRP複合構造研究小委員会
資料 幹3-9-7-1 H211出版企画書
資料 幹3-9-7-2 H211販売促進活動計画書
資料 幹3-10 「土木学会の100年」原稿案

5. 議事内容

(1) 委員長挨拶

幹事会開催にあたり，奥井副委員長（島委員長の代理）より挨拶があった。

(2) 平成 23・24 年度第 2 回複合構造委員会幹事会議事録の確認（資料 幹 3-1）

牧幹事より，前回幹事会議事録案が読み上げられ，下記を修正の上，承認された。

- ・ 9. 小委員会報告 H180 FRP 水門委員会脱稿予定 （誤）10 月予定→（正）11 月
- ・ 5. 論文集特集号 第 3 回委員会 （誤）3 月予定→（正）1 月予定

(3) 平成 25 年度全国大会・研究討論会（資料 幹 3-2）

池田幹事長より，資料 幹 3-2 に基づき報告があった。討論会への出席と質問出しの依頼があった。

(4) 第 10 回複合・合成構造シンポジウムについて（資料 幹 3-3）

溝江幹事より，資料 幹 3-3 に基づき，第 10 回複合・合成構造の活用に関するシンポジウムの準備状況について報告があった。共催の日本建築学会からプログラムの提示があり，土木セッションの座長，特別講演の講演者が決定した。なお，特別講演の講演者には建築学会から講演依頼がいくとのことであった。

資料 幹 3-3 の以下について、訂正内容を建築学会に溝江幹事から連絡する。

- ・期日の年次 2012→2013
- ・プログラム表 11/22 特別講演者 玉井 真一様→玉井 真一

なお、第2日(11/22)の終了後(17:30)に優秀講演賞を決定するのに合わせて、同日に土木学会論文集特集号編集小委員会も開催し、推薦論文を決める予定、と葛西幹事より報告があった。

優秀講演賞の対象者は、11/22以降に幹事会のメーリングリストで委員長承認を得て、賞状を贈ることとしたい。

また、11/22の特別講演の司会は西崎幹事に依頼することになった。

(5) 論文集特集号について(資料 幹3-4 a, b)

葛西幹事より、資料 幹 3-4a, bに基づき、論文集特集号に関する今後の進め方の報告があった。

(主な意見と幹事会の方針(下線部))

- ・投稿者への登載決定通知は2月下旬を予定。
 - ・小委員会報告の査読は1人の予定であるが、幹事会の意見を取り入れ決めたい。
 - ・招待論文のカテゴリーは「論文」。小委員会の報告は、「報告」とする。
 - ・小委員会報告の査読について、出版物のチェックと同様、1種・2種委員会で査読者の人数の考え方を分けた方がいい。したがって査読者数は複数がいい。
 - ・小委員会報告の査読は、内容の主義主張ではなく、商業目的やフォーマットなどのチェックであり、1種・2種委員会の区別と関係ないので、査読者数は同数でよい。
- 以上の議論を踏まえ、小委員会報告の査読については、小委員会報告は査読者を2名とし、招待論文も2名とする。

- ・H206(ずれ止めの性能評価小委員会)から、今年度小委員会報告が投稿されるとのこと。
- ・小委員会報告の内容は、途中経過でも終了時でもよい。
- ・小委員会で作成する報告書に掲載された研究内容が、論文集で非掲載になった場合には、その研究内容の参考文献は、小委員会報告書になる。このような研究内容が考えられる場合には、その研究内容を小委員会の報告書論文に掲載しないなど、既発表にならないような工夫が必要である。

上記の注意事項を複合構造委員会の各小委員会に周知するべく、覚書を作ることになった。

- ・H208, H209の小委員会報告はH27年度に投稿。H180は時期を含め小委員会で検討する。
- ・過去の小委員会の報告で入れた方がいいものは、随時判断した時に入れることとする。なお、「発刊に当たって」や「巻頭言」などに、過去の小委員会の報告(概要)を紹介するなども考えられる。
- ・論文集特集号には「巻頭言」を記載し、編集小委員会委員長に依頼することになった。
- ・論文集の区分は「論文」と「報告」である。シンポジウム論文集は「論文」として出している
ので、当面は原則「論文」として扱う。編集小委員会でも議論することになった。

(6) H210「防水・排水技術」およびH104「巨大地震」合同講習会(7/30)開催報告(資料 幹3-5)

溝江幹事より、資料 幹 3-5に基づき開催報告があった。

(7) H211「FRPと鋼の接合構造」に関する講習会開催計画(資料 幹 3-6-1, 3-6-2)

大久保幹事より、資料 幹 3-6-1, 3-6-2に基づき説明があった。

(主な意見と幹事会の方針(下線部))

- ・参加人数 80 名の見込みは多いかもしれないが目標とする。
 - ・講習会案内を出す必要あるが、テキスト代を早く確定する必要がある。11 月の講習会実施を考えると、9/10 の会告には載せた方がいい。
- 講習会の宣伝は、会告よりホームページに載せる方が、効果があると思われる。複合構造委員会のメーリングリストに会告の内容を知らせてもらうよう、久米村事務局に依頼することになった。

(8) 合成床版の設計・施工マニュアルに関する受託研究小委員会の準備状況（資料 幹 3-7）

大久保幹事より、資料 幹 3-7 に基づき報告があった。

（主な意見と幹事会の方針（下線部））

- ・来年 4 月から開始するのであれば、受託と小委員会設置のために複合構造委員会（親委員会）の承認が必要となる。
- ・H180 FRP 水門設計ガイドライン作成小委員会の場合には、委員長と幹事長は親委員会までに決めていた。委員は小委員会委員長が決め、メール審議で親委員会が承認する。委員は、杉浦先生は了解済み。
- ・委託の依頼文書は橋建協から土木学会に出すが、その文書には依頼先の委員会名は書いていないため、事務局と調整が必要。書式、前例はあるのでそれに従って記載すればよい。予算規模は 200 万円／年程度である。
- ・マニュアルは、許容応力度設計法の枠組みで作成することになると思われるが、複合構造示方書の設計編との整合、示方書の発刊スケジュールが近いことを考慮する必要がある。示方書の施工編はこの委員会の成果を反映できるが、設計編では H180 と同様、許容応力度設計法、性能照査型の両方を作成することになると思う。したがって、性能照査の執筆は、受託側だけでなく委託側（橋建協）にも協力してもらうという両者の認識が必要である。委託側には協力する意識はある。示方書との整合という意味で、示方書の合成部門の委員に入ってもらおうとよい。執筆を考慮し、H180 では委員は受託側のみであったが、委員の中に受託側と委託側がいてもよい。ただし、受託側と委託側で旅費の有無は事前に取り決めが必要。
- ・今回受託すれば 2 件目となるため、許容応力度設計法のように、土木学会の将来の方向である限界状態設計法による照査と異なる場合には、複合構造委員会として受託のスタンスを決めておくべきである。

上記の意見を踏まえ、複合構造委員会で受託する場合の基本的な考え方は下記の通りとする。

①土木学会が今後に向けた性能照査と考える限界状態設計法で執筆する。

②委託側が許容応力度設計法の記載を望む場合には、これも執筆する。

今回の場合、橋建協から土木学会に提出される趣意書の中に、許容応力度設計法と土木学会が今後に向けた性能照査と考える限界状態設計法で執筆する旨記載する。なお、複合示方書に基づく知見を入れる。

③委員には、受託側と委託側を配置でき、限界状態設計法の執筆は、受託側だけでなく委託側にも協力してもらう。

- ・委員にコンクリート専攻の先生に入っていた方がいい。
- ・合成床版は鋼構造委員会の所掌ではなく複合構造委員会の所掌であるのは、鋼構造物設計指針 part A が鋼構造委員会、合成床版を記載した part B が複合構造委員会が担当したことによる。
 - ・土木学会で受託する必然性は、合成床版を基準化した機関がなく、道路橋以外にも広く活用できるようにすることである。
 - ・委託の延長はできるが、費用は必要。

以上の意見を踏まえ、次回幹事会までに委託の趣意書を見直すこととなった。

(9) 出版関係（資料 幹 3-8）

大久保幹事より、資料 幹 3-8 に基づき出版図書の販売状況について説明があった。

複合構造レポート 07, 08 は、販売促進方法を考える必要がある。H101 示方書小委員会で複合構造レポート 07 報告書を購入予定。資料中の 07, 08 の発行部数 3,220, 3,030 の記載は要修正。

来年度の出版予定がある小委員会は、企画書を大久保幹事に提出するよう依頼があった。なお、来年度出版予定は、H206, H208, H209 の 3 つであり、出版企画書の提出期限は 9 月末なので早急に提出するよう依頼があった。H101 は今のところ H26 年度出版予定であるが、講習会と出版の時期を考慮し、小委員会で検討後に報告する。今年出版予定の H180 小委員会は、出版企画書は早急に提出するよう依頼があった。

(10) 小委員会報告審議事項

H101 複合構造標準示方書小委員会

渡辺幹事より、小委員会の活動状況について報告があった。本文が完成予定。出版時期は来年度にするか小委員会で議論して幹事会に判断をあおぐ。

H180 FRP 水門設計ガイドライン作成小委員会（資料 幹 3-9-3）

西崎幹事より、小委員会の活動状況について報告があった。

幹事会幹事による報告書の査読を完了。2 月 19 日に講習会予定。親委員会にも意見照会必要であり、8 月 9 日版で照会予定である。参考資料は完成していないが本文は照会し、後日参考資料は確認していただく。

幹事会としては、査読で提示された修正方針のとおりとする。

土木学会が出版する書籍のタイトルには、ガイドライン（案）、その他にも設計・施工指針などがあるが、今回は FRP 水門 設計・施工指針（案）とする。改訂後に（案）を削除する。また、参考資料の試案の試を削除する。

H206 複合構造ずれ止めの性能評価法に関する調査研究小委員会

特になし。

H208 FRP 複合構造研究小委員会（資料 幹 3-9-5）

西崎幹事より、小委員会の活動状況について報告があった。委員の交代があり次回に報告する。報告書の目次の作成を開始した。6, 7 月に講習会予定。

H209 FRP によるコンクリート構造の補強設計研究小委員会

特になし。

H211 FRP と鋼の接合方法に関する研究小委員会（資料 幹 3-9-7-1, 3-9-7-2）

特になし。

H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会

特になし。

(11) 次回幹事会

・第 4 回幹事会 11 月 15 日（金）14:00～17:00 [土木学会]

(12) その他（資料 幹 3-10）

- ・「土木学会の100年」原稿案に対する意見を後日連絡するよう依頼があった.
- ・小委員会の予算は有効に使用するよう依頼があった.
- ・新たな2種委員会の設立検討
 - 2 種委員会は終了するものが増え，開始するものが減ってきており，設立を検討する必要がある．ただし，講習会開催の労力や報告書の出版などが委員会を設立するハードルとなっている．本来，委員会では活発に活動できることが重要である．研究だけでなく，セミナーや若手の勉強会などを実施することが委員会活動にできるとよい.
- ・次回幹事会で2種委員会の設立について議論する.

以上（記録・文責 広瀬）